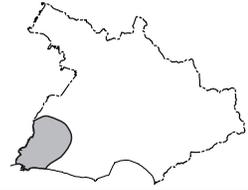


5 腰越地域 地域別方針



目標における網掛け部分 と具体的な取り組みにおける太字部分は平成16年度に追加・修正した部分です。また★印は重点的に取り組む内容です。

まちづくりの基本的考え方

- 『海』、『山』、『川』の豊かな自然環境と共生するまちづくり。
- 誰もが安心して暮らし、活動できる人と自然にやさしいまちづくり。
- 地域住民が共に進める連帯のあるまちづくり。

目標

目標①
鎌倉広町緑地の維持管理と住宅地・市街地の緑の創出

① 鎌倉広町緑地の維持管理を進め、周辺の谷戸などの自然環境を保全する

- ★ 鎌倉広町緑地の市民参画による維持管理
- 谷戸の良好な自然環境の保全

② 計画開発住宅地・市街地の緑の維持と創出をする

- 都市緑地法などによる緑の保全（小動岬）
- 身近な緑の自然環境保全
- 都市公園等の緑の保全と創出
- 昔の面影を残す市街地の良好な低層住宅地の環境保全
- 一般住宅地における良好な住環境の保全
- 緑豊かな住宅地をつくり、守るルールづくり
- 計画的に開発された住宅地の環境保全
- 公共公益施設などでの緑の充実
- 生産緑地地区の保全

③ 神戸川、二又川などの河川の自然を回復し、治水整備とあわせて、きれいな川を取り戻す

- ★ 神戸川、二又川などの自然回復と環境保全・親水化に配慮した治水整備

目標②
小動岬周辺の海浜保全・漁業と商業の振興・旧市街地の環境保全と歩行者空間の充実

① 小動岬・海浜の自然・歴史的な環境の保全と漁港整備による生業の拡大を図る

- 海岸ゾーンとして自然環境と歴史的な環境に配慮した環境改善と保全を行う
- ★ 漁業の振興、市民とのふれあいの場の提供（市民開放ゾーン、漁業ゾーン、環境再生ゾーンに基づく施設の配置）
- ★ 災害時の漁船、小型船舶の避難と緊急時救援拠点

② 海岸線・商店街・江ノ電などが一体化した生き活きとしたまちづくりを行う

- 腰越漁港と一体化した生活・観光型商業地の形成
- 商店街のルール化によるまち並みの整備
- 海沿い観光施設と調和した低層住宅
- 海沿いの建物の適切な景観誘導（ルールづくり）
- 主要道路沿いの住宅地形成（腰越大船線等）
- 国道134号の機能強化

③ 路地を大切に、誰もが歩きやすい歩行空間を充実する

- 生活道路の環境改善
- 路地のある環境やまち並みをできるだけ保全する
- 主要な道路沿いや河川、海沿いなどの散策路の整備
- 地域間を結ぶ主要道路の整備・改善（腰越大船線等）

目標③
安全で住みやすく、地域の連帯あるまちづくり

① 高齢者・障害者が安心して生活できるまちをつくる

- 高齢者の憩いの場や施設をつくる（腰越方面老人福祉センターの建設準備等）
- 高齢者や子ども、障害者に配慮した歩道の整備
- 地域交通拠点の交通施設の充実

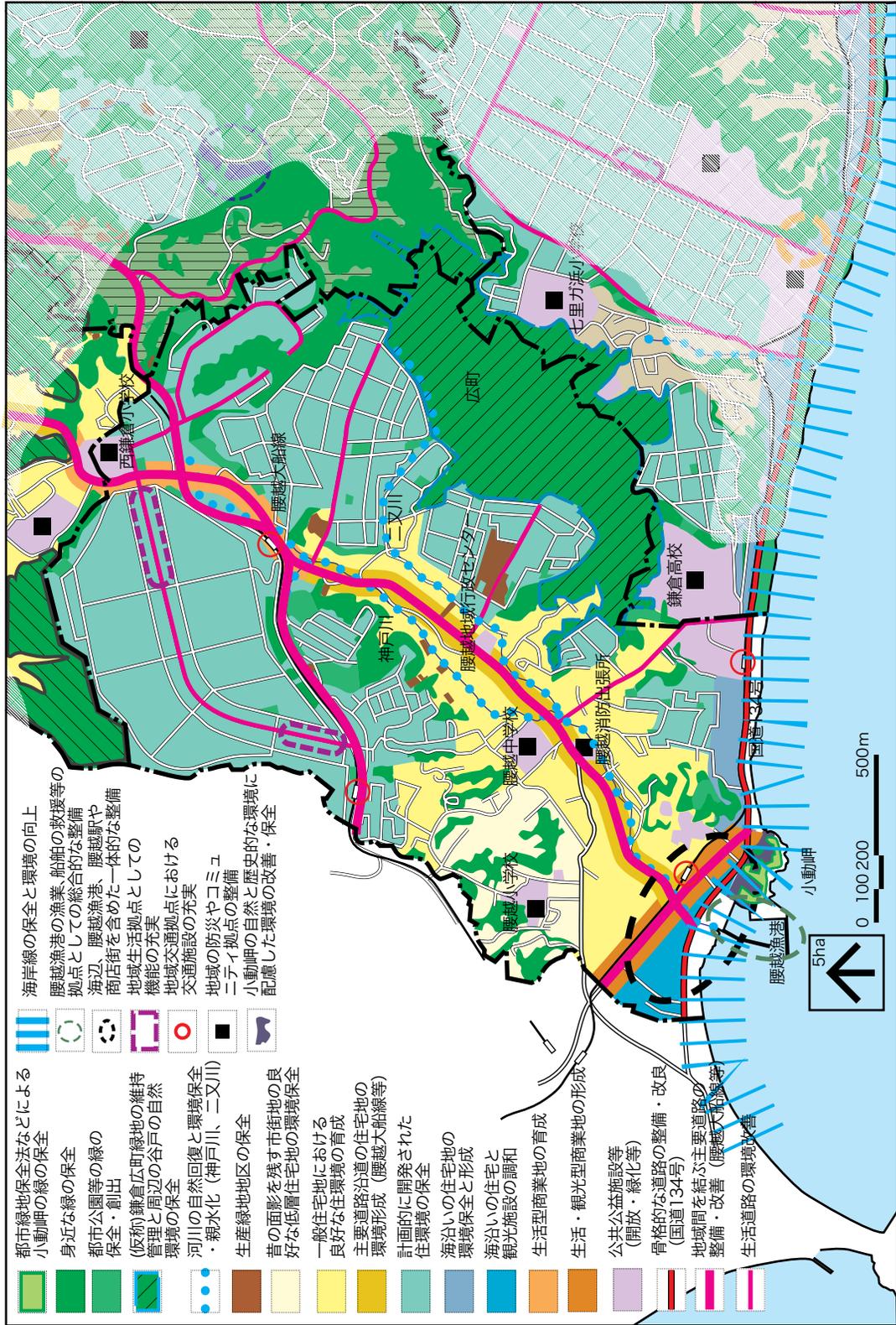
② 防災に配慮したまちをつくる

- 災害時のための水源（井戸）の保全
- 地域防災拠点の整備
- 緊急時にも活用できる漁港の整備
- 津波や台風などの水害やがけ崩れの予防

③ 地球規模での環境問題に配慮し、地域で行動できるまち(人)をつくる

- 地域コミュニティの拠点として腰越地域行政センターの活用

図 地域別方針……腰越地域



1. 地域の特性

- 海岸沿いの低地部を中心に漁港の町として発展してきました。市街地は別荘地の面影を残す戸建て住宅地と昭和40年代を中心に開発された大規模な住宅団地に大きく分かれ、その周辺部にはまとまった緑地が残されています。地域は狭いものの、まちには多様性があります。
- また、藤沢市と隣接していることから地域性において強い結びつきを持っています。

2. 主な動向と取り組み

地域別の方針(本編146ページ)に掲げる3つの目標についての主な動向と取り組みは次のとおりです。

目標① 広町の緑の保全と住宅地・市街地の緑の創出

- 地域別方針の目標の一つである「広町の緑地の保全」が実現することとなり、「(仮称)鎌倉広町緑地基本構想」(H15.12)及び「同基本計画」(H16.8)が策定されました。現在、都市計画決定に向けた手続きを進めています。
- 鎌倉広町緑地以外の周辺の緑地については、その一部で小規模ながら宅地化が進んでいます。

目標② 小動岬周辺の海浜保全・漁業と商業の振興・旧市街地の環境保全と歩行者空間の充実

- (民宿も兼ねた)趣向を凝らしたレストランが増えています。
- 「鎌倉市腰越漁港整備基本計画」を策定し(H13.8)、漁港改修に向けた検討を進めています。

目標③ 安全で住みやすく、地域の連帯あるまちづくり

- 支所、学習センター、図書館機能を備えた腰越行政センターを整備しました(H11.12)。

3. 重点的に取り組む内容

海、山、川のある地域の特性を活かすための、漁港の整備、緑の保全と維持管理、河川の防災対策が重要です。

重点

1) 腰越漁港の整備

- 漁業の振興のみならず、広く市民の憩いの場としての利用を考えた施設を「鎌倉市腰越漁港整備基本計画」に基づき整備します。
- また、災害時に陸路が寸断される恐れがあることから、非常時等の海上輸送拠点としての使用を考慮した防災面での整備を強化します。

重点

2) 鎌倉広町緑地の保全と維持管理

- 都市林としての保全が決定したことから、今後は都市計画法に基づく手続きを進めるとともに、未買収土地の公有地化を図ります。また、市民との協働による保全と維持管理を推進します。

重点

3) 神戸川の防災対策

- 神戸川沿いで台風 22 号 (H16.10) による浸水の被害がありました。このため、地震による津波対策に加え、台風を含む防災対策について再検討します。

ソフト面の取り組み

- 市民ボランティアの育成 (ケアグループ等)
- 高齢者の利用しやすい交通システム
- 災害時の避難、救援システム
- ごみの減量、リサイクルの推進
- 海岸線の自然環境と歴史的風土の維持・保全のための長期的な調査・研究

検討課題

- 国道 134 号の機能強化の具体的な整備の方向
- 海岸線の自然環境と歴史的風土保全のため長期的調査と防護策を検討